むかーし、むかしのことでございます。給料日に社長と面接する会社があったそうな。給与明細を前に向かい合う二人。「あなたはこの給料に見合った働きをしとるかね」と社長。もう一人は、初任給 145,000 円の駆け出しの営業マン。そりゃあ、目に見える成果などあるわけもございません。胃が痛くなるのが嫌で、彼は給料日が嫌いでした。

ある冬の日のこと。記録的な大雪が降りましてね。彼の住む家から会社まで、普段なら一時間で通えるところが、電車が大幅に遅延いたします。二時間も満員電車に閉じ込められた挙句の果て、汗だくになって職場まで走ったのですと。携帯電話など、まだ影も形もない時代、乗換駅の公衆電話も長蛇の列、会社への連絡などできるはずもありません。

息を切らして駆け込んで、押したタイムレコーダは"9:29"を指しておりました。肩を落とす彼に、案の定、声がかかります。「ちょっと、社長室まで。」…「雪が降っていたのなら、なぜもっと早く家を出なかった？」(いえ、一時間も早く出たのですが…)「遅れるとわかったところで、なぜ連絡しなかった？」(いや、公衆電話も一杯で…)思っただけで、口に出すこともできません。大汗はいつの間にか油汗に変わっておりました。

ほどなくして、次の給料日面接を迎えます。明細を見ると、なんと 5,000 円の減額! 「あなたのためだ」とワケのわからんことを言う社長。(30 分遅刻で 5,000 円? 俺の時給って 10,000 円??) と、頭の中??? が飛び交う彼。

今は昔。もう 30 年、いや 40 年近く前のお話しでございます。「言われなくてよいこと、言われたくないことを人に言わせない。」彼はそう悟ったのだとさ。

。。。。。

その後、彼は営業の途中、仕事をさぼって図書館に通い
大学に聴講生として籍を置いて教職課程の単位不足を補い
四年後、英語と水泳とロックを教える人となりました。

以来、約 30 数年間、時間にだけは厳しく、偉そうなことを言ってきましたが
今は、並木道の銀杏を拾い、正門で若者たちに声をかけ、交通整理などしているそうです。
めでたし、めでたし・・・?

Touch the Sky! TOYOTAMA!